

■ 協力会社とやり取りする書類を2つのICTツールでデジタル化
 ■ デジタル化推進人材の育成のために研修を実施

書類の作成業務や確認作業の時間を大幅に削減

育成した人材が勉強会を提案するなど自律的活動に



企業情報
業種 総合建設業
事業内容 建築工事 設計及び施工
創業 1954年12月
代表者 代表取締役 露木 直巳
所在地 神奈川県川崎市宮前区野川台1-22-3
従業員数 23名
企業紹介

鉄筋コンクリート造による建築を得意とする総合建設会社。川崎・横浜・東城南エリアを中心に高級注文住宅から賃貸マンション、福祉施設、公共建築物などを手がけている。公共工事で培われた技術力、民間工事には欠かせない企画提案力で「羨望のまなざしで見つめられる建物づくり」を行っている。



https://tsuyuki-kensetsu.co.jp/



従来の課題

- ・現場で行う事務処理の負担が重く、本来業務を圧迫していた
- ・現場の高齢化による技術継承の問題があったが、採用が難航していた

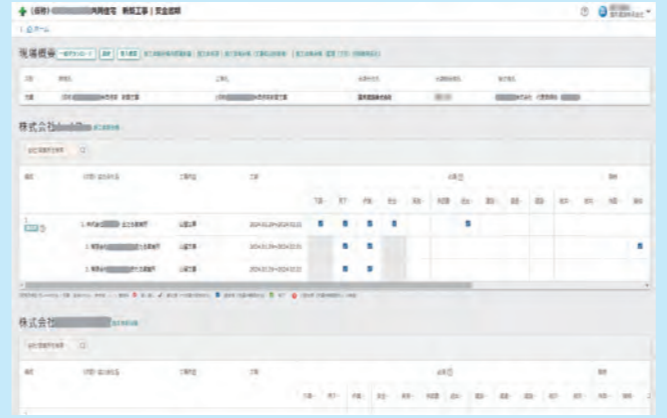
当社は鉄筋コンクリート造による建築物を手がける建設工事会社です。数年前からDX化の取組を進め内勤部門ではかなり業務負担が軽減しましたが、現場技術者が行う事務処理の負担が重く、本来業務である施工管理業務を圧迫していました。2024年4月から始まった建設業の時間外労働上限規制適用にも対処する必要があり、現場の負担軽減が課題となっていました。また、現場技術者の高齢化が進んでおり採用と技術継承も問題になっていましたが、長時間労働や休日の少なさなど建設業の働き方に対するネガティブな印象から採用活動が難航していました。そこで、ICT化を進めることで、デジタルネイティブである若い世代に向けて生産性の高い魅力的な職場環境であることを示したいと考えていました。

取組概要

- ・2つのICTツールを導入し協力会社との各種書類をデジタル処理
- ・デジタル化推進人材を育成するため研修を実施

今回の事業では、これまで協力会社との間で紙文書にてやり取りされていた「受発注及び請求業務」、「安全書類の授受及び作成」について、2つのクラウドシステムを導入しデジタル化を行いました。まず、受発注及び請求業務に関するシステム「BtoBプラットフォームTRADE」により現場からの発注稟議と協力会社との契約締結をシステム上で完結させることができるようになりました。また、安全管理のため整備が義務付けられている「安全書類」の管理システム「Greenfile.work」の導入により、それまで紙書類でやり取りしていた書類管理の電子化、不備・不足チェックの自動化などが実現、書類作成と管理に要していた時間短縮分のリソースを、現場の安全・品質管理に回ることができるようになりました。また、IT担当者の業務負荷分散のため、システム導入と同時並行で

研修事業にも着手し、デジタルツールの基本概念や用語の学習、その理解と活用に焦点を当てたプログラムの受講を通して、自社の課題に最適化されたシステムの選定ができる人材の育成を目指しました。



協力会社毎に安全書類の提出状況を確認

実施効果

電子契約の導入により、契約書を作成する業務がなくなり、締結状況を確認し未処理案件の督促をするだけになりました。請求業務についても協力会社に請求データを送信してもらうことで、データの入力時間や現場担当者への確認作業を削減することができました。安全書類に関しては、複数の帳票に重複して入力していたデータの流用が可能になり、かつ必要書類の提出状況も一目でわかるようになり、現場の事務処理で一番時間を要していた負担の大幅軽減につながりました。人材育成についての一番の成果は、研修を受けた受講生が社内からの問合せに対して足りない部分を提案できるようになり、また自ら全社的な共有の場をつくっていくことを提案し、定期的にICTリテラシー向上勉強会を開催するようになるなど、IT活用の推進について自発・自律的な行動が生まれたことです。全社的な知識の普及とスキルアップにより次のステップにつながることを期待されます。



成功の決め手・秘訣

数年前からICT活用プロジェクトを立ち上げ、段階を踏んで説明の場を設けるなど細やかに対応することで社内での合意形成を取り付けたこと。

社員の声

今回の取組をきっかけに、他部署の仕事を理解していこうという動きが生まれました。部署間で助け合うことで、人手不足の問題にも対応できるようになりました。

今後の展開

建設DXという言葉が一般化しており、大手と中小の格差が広がっていくことに脅威を感じていました。そのギャップを少しでも縮めるため7年前から始めたICT活用プロジェクトで少しずつ展開してきましたが、今、その土壌が生きて前向きな発想につながっています。採用活動で、若手の求職者からICT活用について尋ねられる機会が増えており、本事業で導入したシステムにより効率化した実績を採用面でのPRにも活かして参ります。

導入のポイント

当社では本事業の実施前に「ジョブカン(電子稟議システム)」を足がかり的に導入していました。最初に簡単なツールを導入し、徐々に慣れてもらうことで、次のステップで新たなシステムの導入ハードルを下げる事ができます。また、社内でのITの知識量にバラツキがあると導入を阻む要因となるため、全社員向けに勉強会等の機会を持つことも大切です。納得感や、自分事感を高めてもらい、そして実際に使ってもらって利便性を感じてもらい流れが欠かせません。こうしたシステムを取り入れていくことで、既に働き方改革が進んでいる内勤部門とのギャップを減らすことも重要だと考えています。仕事の大変さが一極に集中するのではなく、皆で分担していく、従来の建設業界の意識を塗り替える挑戦を続けて参ります。



メンバーサクセスグループ 代表取締役 メンバーサクセスグループ
 高下 香純 露木 直巳 佐藤 孝雄